

すべきこととございます。その意味から二次産業、あるいは三次産業の構造をどういうふうにもっていかうかということ。産業構造も変化をし、それにともなって消費構造も変わってくるわけですからね。

それで、熊本の地場企業をどういう産業に今後推移させるのか、あるいはすべきであるかという指針なり、リーダーシップをとっていただきたいと思うわけです。

私は商業においても、熊本の場合は商業空間というか、売り場面積がオーバースペースだということについて、リーダーシップをとっていかなければならぬと思うわけですが、知事の深い理解と今後のご指導をお願いしたいわけです。

大手のスーパーが進出してくるということは、熊本の零細企業等が圧迫され、知事がいわれおるところの、心豊かな、温かい心のふれ合う環境というのが疎外されはしないかという感じでございます。

知事——県内の中小企業というか既存企業、これは基本的には、県全体の経済力というものが、バックグラウンドにあるわけで、これが活発になり、大きく伸びれば、既存の地場の中小企業も栄えていくと、それが基本の方向だと思えます。

まず、私が知事に就任して、人口の減少をいとめる、県民の所得水準をあげる、この二つが大きな課題だったわけですね。幸い、人口も順調に増加し、所得水準も向上しています。もちろんこれは時

代の推移もありましようがね。私はこの勢いを、一九八〇年代という時代になっても持続させなければならぬと考えます。

そして人口が増え、所得水準があがり、県全体の経済力がついてくるならば、地場の中小企業も間接的にいい方向へいけるものと思えます。大店舗等との競合はありましようけれども、やはりそれが大事なことではないかと思えます。

一九八〇年代になっても、基本はやはり第一次産業です。これは国民の食糧供給基地として今後ますます重要な役割をもつわけですからね。

だから私は、その年々の盛衰はあっても、基本的には、第一次産業というのは非常に大事な分野であり、またこの景気がよくないと地場の中小企業というのもおもしろくない、そういう考え方をしています。

よその県の方がよくいうんですが、熊本は人の足をひっぱる県民性だといわれていますね。鹿児島や沖縄は、みんな盛立で、それによって自分たちも発展する方向をとると。そういうことをよくいわれます。

だからやはり協力体制というものを、もう一度確認すべきであると思えますね。特に観光産業の振興なんていうのは。

とは非常にユニークな企業だと思えます。もし他にもユニークな企業分野というのがあれば、私は積極的に取り組むたいと思えます。

特に、第一次産業との連携、あるいはその加工といったようなことができる、とすれば非常に結構なことだと考えます。

小堀——勤労者にとって一番大きな問題は、住宅環境というのがあると思えます。

その住宅環境も、市街化がだんだん進んでいるわけですが、勤労者が賃金に占める住宅費というのは、かなり大きいわけですね。持ち家制度というの若干あるとは思いますが、勤労者が誰でもはいるような住宅政策というものを煮詰めていただきたいと思えます。

知事——住宅問題ということになると、県の施策だけでは、なかなか難しい面もあるわけですね。国の方針なり、あるいは組織自体の努力の問題で、県としてできるだけお手伝いをするという観点からやっておるわけで必ずしも十分ではないわけですね。

県だけでご要望に沿うということは、予算的にも難しい面がありますけれども、熊本県が働く人々にとって理想的な環境に近づきうに思っています。

このことに一言つけ加えますと、政府が地方定住圏構想、あるいは田園都市構想を打ちだしておりますが、責任をもつ

第です。知事——これから景気をよくし、経済力を高めるためには、第一次産業が主体であると強調したわけですが、それだけでは足りないということも申し上げております。特に県全体をみた場合、県南部についてははもともと企業の誘致が必要であると思えます。どういう企業がいいか

### 勤労者の誇りをもてる熊本に

小堀——現在はすでに安定成長期にはいつつあるわけで、これからの県政を語る時に、やはり地場産業の育成というのは一番必要ではないでしょうか。そのためには魅力ある産業の振興ができるような企業をもっと誘致してもらいたいと思えます。

それから、熊本県は農業県といわれてきたわけですが、ユニークな企業というのを見直す必要があるのではないかと思えます。これからは人口も増え、また交通網も整備されて東京も近く



という、これがなかなか難しいわけですよ。経済というのは生き物であり魔物ですからね。これからよく勉強してみないとわかりませんが、少なくとも公害の恐れのないもの、地元への波及効果が大きいもの、雇用力の高いもの、国際競争力のあるもの、こういったものでしょうね。

なるわけですね。それで東京の企業も、熊本の企業も差がなくなると思えます。その時、優秀な人材、企業等を積極的に育成してもらって、魅力ある県、どこにも負けない県、勤労者の一人一人が熊本県に誇りをもって、日本全国、そして世界にでているような大きなビジョンをもちたいと私たち勤労者は考えるわけですね。

知事——私は、熊本県の将来に、決して悲観はしていません。先ほど申しましたが、人口も増加し、所得水準も向上しているわけですね。幸い熊本は、日本の高度成長にとり残されたものから、自然の豊かさといえますが、環境破壊から免れた面もあるわけですね。むしろそれが貴重な財産となっているわけですね、これを大事にし、逆にこれを売りだすことで、新しい活路が開けると思っています。もちろん企業誘致も大変必要です。小堀さんが勤務されている化血研な

ついでですけれども、熊本市内はかなりの整備がなされているようですが、田舎の方はまだまだという感じがしますけれども。

知事——検診の事後措置ということですが、先ほど私が県民保健センター的なものを将来考えてみたいと思いましたが、まさにそういうことですね。

いろいろな機関で検診がなされていますが、必ずしも組織化されていない、連携が密でない、ということもありません。それで検診を受けた人たちの健康管理カードといったものを作成して、それをコンピューターシステムで一括してセンターに保管しておいて、もし病気にでもなったら、過去の検診データが即座にわかるとかね。そういう検診の事後措置というものも含めて県民の健康管理するシステムを考えたいということなんです。

そうすることによって、一層検診の効果が発揮できるし、また検診に対するみなさんの取り組み姿勢も変わってくるだろうと思えますね。

そして、そういったセンターというものが整備され、情報が一元化されることによって、救急医療の面についても、非常に安心できる面が付加されると思えます。

たとえば子供さんが病気になるたとしてもセンターに通報があれば、どこの病院はベッドが空いているとか、専門医はここにいるとかの指示が即座にできる体制も整えることができるのではな

### 健康づくりは主婦の手で

坂口——知事の「人間尊重」「生活優先」を基本とした温かい心のふれあうふるさとづくりで、ここ数年、日にみえて明るい生活を得つつあるのが、私たち主婦ではないかと思えて感謝しております。

私の町では、県政に沿った町政が行われており、いろいろな面で恵まれております。施設にしても、町立病院、母子センター、特別養護老人ホーム、健康管理センター等も整っております。

そういう中で、問題がないわけでは無いのですが、とても温かい明るい生活が確実にできつつあることを喜んでおります。

私たち主婦といたしまして、大体四つの柱からふるさとづくりに取り組んで



まず心と身体の健康に関わる問題。子供の保育、教育に関わる問題。消費、経済に関わる問題。そして地域の連帯づくり、奉仕活動、社会参加に関わる問題。これら四つの面から取り組んでおりますけれども、非常に行政の措置、指導がよく行われていると思えます。

知事——まことに結構な、ありがたいことだと思えます。ますますひとつとつという方向で住民の意識、気運というものが、全県下に広がりますと、私は非常に効果を発揮するのではなからうかと思えます。